

大学番号：私149

[平成28年度設置]

計画の区分：学部設置

認可

山梨学院大学 スポーツ科学部

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人 山梨学院
平成29年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 教務部 教務課

職名・氏名 鬼頭 雅明

電話番号 055-224-1312

F A X 055-224-1492

e-mail yg-kyoumu@ytos.ygu.ac.jp

- (注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。
- 2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。
設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には設置時の旧名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、現在の名称を記載してください。
例) 〇〇大学 △△学部 □□学科
(◇◇学部(平成◇◇年度より学部名称変更))
表題は「計画の区分」に従い、記入してください。
例)
・大学新設の場合：「〇〇大学」
・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」
- 3 大学番号の欄については、平成29年3月31日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書等の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

スポーツ科学部

＜スポーツ科学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	12
4. 既設大学等の状況	13
5. 教員組織の状況	15
6. 留意事項等に対する履行状況等	28
7. その他全般的事項	31

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人 山梨学院

(2) 大学名

山梨学院大学

(3) 大学の位置

〒400-8575
山梨県甲府市酒折二丁目4-5

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(フルヤタダヒコ) 古屋忠彦 (昭和54年10月)		
学長	(フルヤタダヒコ) 古屋忠彦 (昭和54年10月)		
学部長	(エンドウトシロウ) 遠藤俊郎 (平成28年4月)		
学科長等	(エンドウトシロウ) 遠藤俊郎 (平成28年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成27年度に報告済の内容 → (27)

平成29年度に報告する内容 → (29)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ なお, 課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は, 法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
 ・ 様式は, 平成26年度開設の4年制の学科の場合(平成29年度までの4年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し, 5年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	收容定員	
スポーツ科学部 スポーツ科学科 学士(スポーツ科学)	体育関係	4年	170人	— 年次人	680人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前的人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には, 「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度		平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	170 () [-]	人	170 () [-]	人	() []	人	() []	人	1.18 倍	
志願者数	300 () [-]	0 () [-]	374 () [-]	0 () [-]	() []	() []	() []	() []		
受験者数	295 () [-]	0 () [-]	370 () [-]	0 () [-]	() []	() []	() []	() []		
合格者数	224 () [-]	0 () [-]	252 () [-]	0 () [-]	() []	() []	() []	() []		
B 入学者数	191 () [0]	0 () [0]	211 () [-]	0 () [0]	() []	() []	() []	() []		
入学定員超過率 B/A	1.12		1.24							

- (注) ・ 数字は, 平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
 ・ ()内には, 編入学の状況について**外数**で記入してください。なお, 編入学を複数年次で行っている場合には, (())書きとするなどし, その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ []内には, 留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については, **各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出**してください。なお, 計算の際は**小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで記入**してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学年	対象年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度		備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	191 [-] (-)	0 [-] (-)	211 [-] (-)	0 [-] (-)							
2年次	/		186 [-] (-)	0 [-] (-)							
3年次			/								
4年次	/										
計			191 [-] (-)		397 [-] (-)						

- (注) ・ 数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ []内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	入学者数(b)	退学者数(a)	退学者数(内訳)			主な退学理由	入学者数に 対する退学者数 の割合 (a/b)
			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		
平成28年度 入学者	191 人	5 人	平成28年度	5 人	0 人	就学意欲の低下(1)、学力不足(1)、他の 教育機関への入学・転学(2)、その他(1)	2.61 %
			平成29年度	0 人	0 人		
			平成30年度	— 人	— 人		
			平成31年度	— 人	— 人		
平成29年度 入学者	211 人	0 人	平成29年度	0 人	0 人		0.00 %
			平成30年度	— 人	— 人		
			平成31年度	— 人	— 人		
平成30年度 入学者	— 人	— 人	平成30年度	— 人	— 人		0.00 %
			平成31年度	— 人	— 人		
平成31年度 入学者	— 人	— 人	平成31年度	— 人	— 人		0.00 %
合 計	402 人	5 人					1.24 %

(注)・数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- ・各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- ・短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- ・「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成29年5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位までを記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
 (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

2 授業科目の概要

＜スポーツ科学部 スポーツ科学科＞

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手				
総合基礎 共生 教育科目	基幹・基礎	法学（日本国憲法）	1・2後	2								兼1	倉澤一孝兼任講師を平成28年4月より本学現代ビジネス学部に採用のため自分を兼担准教授に変更し担当。(28) 倉澤一孝兼任講師を平成28年4月より本学現代ビジネス学部に採用のため自分を兼担准教授に変更し担当。(28)	
		経済学Ⅰ	1・2前	2								兼1		
		経済学Ⅱ	1・2後	2								兼1		
		人間と科学Ⅰ	1・2前	2			1							
		人間と科学Ⅱ	1・2後	2			1							
	人間・文化	日本の古典の世界	日本の古典の世界Ⅰ	1・2前	2								兼1	塩沢一平兼任講師が平成29年3月末にて退職したため、平成29年4月より山崎健太兼任講師が担当。(29) 塩沢一平兼任教授平成28年4月より他大学に移籍のため自分を兼任講師に変更し担当。(28)- 塩沢一平兼任講師が平成29年3月末にて退職したため、平成29年4月より山崎健太兼任講師が担当。(29) 塩沢一平兼任教授平成28年4月より他大学に移籍のため自分を兼任講師に変更し担当。(28)- 音楽と文化Ⅰ 音楽と文化Ⅱ 宗教と人間Ⅰ 宗教と人間Ⅱ 平和学Ⅰ 平和学Ⅱ 現代日本文化と東アジアⅠ 現代日本文化と東アジアⅡ 異文化コミュニケーション 生物と環境Ⅰ 生物と環境Ⅱ 自然の探求Ⅰ 自然の探求Ⅱ 観光と自然保護 観光・ホスピタリティ概論 富士山と観光
			日本の古典の世界Ⅱ	1・2後	2								兼1	
			音楽と文化Ⅰ	1・2前	2								兼1	
		音楽と文化Ⅱ	1・2後	2								兼1		
		宗教と人間Ⅰ	1・2前	2								兼1		
		宗教と人間Ⅱ	1・2後	2								兼1		
		平和学Ⅰ	1・2前	2								兼1		
		平和学Ⅱ	1・2後	2								兼1		
		国際・社会	現代日本文化と東アジア	現代日本文化と東アジアⅠ	1・2前	2								
	現代日本文化と東アジアⅡ			1・2後	2								兼1	
	異文化コミュニケーション			1・2前	2								兼1	
	環境・社会	生物と環境	生物と環境Ⅰ	1・2前	2								兼1	
			生物と環境Ⅱ	1・2後	2								兼1	
			自然の探求Ⅰ	1・2前	2								兼1	
			自然の探求Ⅱ	1・2後	2								兼1	
			観光と自然保護	1・2後	2								兼1	
	観光・社会	観光と自然保護	観光と自然保護	1・2後	2								兼1	
			観光・ホスピタリティ概論	1・2前	2								兼1	
	教育・社会	学校と子ども	富士山と観光	1・2後	2								兼1	野田金男兼任講師健康上の理由により就任辞退。 古屋亮兼任講師が代わって担当。(28)
			教育と社会Ⅰ	1・2前	2								兼1	
教育と社会Ⅱ			1・2後	2								兼1		
食生活と健康			1・2後	2								兼3		
青年と社会			1・2前	2								兼1		
生活世界の探究			1・2後	2								兼1		
心理学Ⅰ			1・2前	2								兼1		
心理学Ⅱ	1・2後	2								兼1				
学校と子どもⅠ	1・2前	2								兼1				
学校と子どもⅡ	1・2後	2								兼1				
国際コミュニケーション	基幹・基礎	英語Ⅰ	1前	2								兼5	履修希望者（外国人留学生）がいなかったため(29) 履修希望者（外国人留学生）がいなかったため(28) 一瀬拓樹兼任講師本学職員として採用の理由により就任辞退。 他に担当教員が4人いるため、支障はない。(28) 履修希望者（外国人留学生）がいなかったため(29) 履修希望者（外国人留学生）がいなかったため(28) 一瀬拓樹兼任講師本学職員として採用の理由により就任辞退。 他に担当教員が4人いるため、支障はない。(28) 履修希望者（外国人留学生）がいなかったため(29) 履修希望者（外国人留学生）がいなかったため(28) 一瀬拓樹兼任講師本学職員として採用の理由により就任辞退。 他に担当教員が4人いるため、支障はない。(28) 履修希望者（外国人留学生）がいなかったため(29) 履修希望者（外国人留学生）がいなかったため(28)	
		英語Ⅱ	1後	2								兼5		
		英語Ⅲ	2前	2								兼5		
		英語Ⅳ	2後	2								兼5		
		日本語Ⅰ（外国人留学生対象）	未開講 未開講 1前	2								兼4 兼5		
		日本語Ⅱ（外国人留学生対象）	未開講 未開講 1後	2								兼4 兼5		
		日本語Ⅲ（外国人留学生対象）	未開講 2前	2								兼4 兼5		
		日本語Ⅳ（外国人留学生対象）	未開講 2後	2								兼4 兼5		

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					備 考			
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手				
専 門 共 通 教 育 科 目	A 群	スポーツ基礎演習	1通	4			2			1		兼5		
		スポーツキャリア形成	2通	4			5					兼1		
	B 群	スポーツ哲学（体育原理を含む）	1・2後		2								兼1	平成29年3月 入江省熙教授退職（29） <small>入江省熙教授の退職により、兼任教員（霧島広樹）を追加（29） 入江省熙教授の退職により、専任教員を追加（29）</small> 〔担当 小山さなえ（教授） 平成29年6月 AC教員審査提出予定 （オムニバス方式）〕
		スポーツ史	1・2前		2								兼1	
		スポーツ社会学	1・2後		2				1					
		スポーツ経営学	1・2前		2			0					兼1	
		スポーツ心理学	1・2前		2			1		1				
		スポーツ教育論	1・2後		2					1				
	野外活動・教育論	1・2後		2						1				
		コーチング論（運動学、運動方法を含む）	1・2前		2			1						
	C 群	スポーツ生理学	1・2後		2				1				兼1	
		スポーツ栄養学	1・2後		2									
		スポーツバイオメカニクス（機能解剖学を含む）	1・2後		2					1				
		体力論	1・2後		2				1					
		スポーツ医学	1・2前		2								兼1	
		スポーツ傷害論	1・2前		2						1			
		情報処理（統計を含む）	1・2後		2			3		2				
	a 科 目 群	実技実習 a 1（トレーニング/体づくり運動）	1・2前後		1				1	1			兼1	（オムニバス方式） （オムニバス方式） （集中）
		実技実習 a 2（ダンス）	1・2前後		1								兼1	
		実技実習 a 3（器械運動）	1・2前後		1								兼1	
		実技実習 a 4（陸上競技：短距離・跳躍・投てき）	1・2前後		1			1	1	1				
		実技実習 a 5（陸上競技：長距離）	1・2前後		1			1						
		実技実習 a 6（水泳・水中運動）	1・2前後		1			1						
		実技実習 a 7（スケート）	1・2前		1			1						
	b 科 目 群	実技実習 b 1（バスケットボール）	1・2前後		1								兼1	学生の履修の便に資するため、開講時期を追加。（29） 運営上の安全性に配慮し前期に変更。（28） （オムニバス方式）
		実技実習 b 2（サッカー）	1・2前後		1			1						
		実技実習 b 3（ラグビー）	1・2前後		1								兼1	
実技実習 b 4（ホッケー）		1・2前		1			2							
実技実習 b 5（バレーボール）		1・2後		1				1						
実技実習 b 6（テニス）		1・2前		1								兼1		
実技実習 b 7（ソフトボール）		1・2前後		1								兼1		
c 科 目 群	実技実習 c 1（柔道）	1・2前後		1								兼1	運営上の安全性に配慮し後期に変更。（28） 学生の履修の便に資するため、開講時期を追加。（29）	
	実技実習 c 2（レスリング）	1・2後		1			1							
	実技実習 c 3（空手道）	1・2前		1								兼1		
d 科 目 群	実技実習 d 1（野外活動：キャンプ）	1・2・3・4前		1			1		1				（集中）	
	実技実習 d 2（野外活動：水辺）	1・2・3・4前		1				1					（集中）	
	実技実習 d 3（野外活動：雪上）	1・2・3・4後		1			1		1				（集中）	

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					備 考		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
専 門 教 育 科 目	コース 共通	スポーツ専門演習 1	3通	4			5 6	5	3			平成29年3月 入江省熙教授辞職 (29) 入江省熙教授の辞職により、教員を追加 (29) 〔担当 小山さなえ (教授) 平成29年6月 AC教員審査提出予定	
		スポーツ専門演習 2	4通	4			5 6	5	3			平成29年3月 入江省熙教授辞職 (29) 入江省熙教授の辞職により、教員を追加 (29) 〔担当 小山さなえ (教授) 平成29年6月 AC教員審査提出予定	
	a 科 目 群	競技スポーツマネジメント論	2・3・4後		2			3					(オムニバス方式)
		競技スポーツ情報戦略論	2・3・4前		2			2					兼 1 (オムニバス方式)
		競技スポーツコーチング論	2・3・4後		2			1	1				兼 1 (オムニバス方式)
		競技スポーツトレーニング論	2・3・4前		2			2					兼 1 (オムニバス方式)
		スポーツコミュニケーション論	2・3・4前		2			1					
		障がい者競技スポーツ論	2・3・4後		2			1					
	b 科 目 群	競技スポーツ技術論	2・3・4後		2			1	1				兼 1 (オムニバス方式)
		競技スポーツ戦術論	2・3・4前		2			1	1				兼 2 (オムニバス方式)
		競技スポーツ体力論	2・3・4前		2								
		競技スポーツ心理論	2・3・4後		2			1					
		競技スポーツ傷害論	2・3・4前		2				1				
		競技スポーツ栄養論	2・3・4後		2								兼 1
	c 科 目 群	競技スポーツ演習 1 (マネジメント)	2・3・4前		2			1					
		競技スポーツ演習 2 (バイオメカニクス)	2・3・4前		2				1				
		競技スポーツ演習 3 (ゲーム分析)	2・3・4前		2			1					
		競技スポーツ演習 4 (体力)	2・3・4前		2				1				
		競技スポーツ演習 5 (心理)	2・3・4前		2				1				
		競技スポーツ演習 6 (傷害)	2・3・4前		2					1			

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					備 考	
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
専 門 教 育 科 目	a 科 目 群	現代スポーツ論	2・3・4前	2			1					兼 1 平成29年3月 入江省熙教授退職 (29) <small>入江省熙教授の辞職により、兼任教員 (霧島広樹) を追加 (29)</small> 入江省熙教授の辞職により、教員を追加 (29) 〔担当 小山さなえ (教授) 平成29年6月 AC教員審査提出予定〕
		生涯スポーツ政策論	2・3・4前	2			1					
		生涯スポーツプロモーション論	2・3・4後	2			1					
		生涯スポーツマネジメント論	2・3・4後	2								
		スポーツビジネス論	2・3・4前	2			0 +					
		スポーツマーケティング論	2・3・4後	2			0 +					
		レクリエーション論	2・3・4前	2			1		1			
		健康体力論	2・3・4前	2				1				
		健康心理論	2・3・4後	2				1				
		子どもスポーツ論	2・3・4前	2				1				
	高齢者スポーツ論 (要介護者を含む)	2・3・4後	2			1						
	障がい者スポーツ論	2・3・4前	2			1						
	b 科 目 群	生涯スポーツ演習1 (スポーツプロモーション)	未開講 2・3・4前	2			1				兼 1 平成29年3月 入江省熙教授退職 (29) <small>入江省熙教授の辞職により、兼任教員 (霧島広樹) を追加 (29)</small> 入江省熙教授の辞職により、教員を追加 (29) 〔担当 小山さなえ (教授) 平成29年6月 AC教員審査提出予定〕	
		生涯スポーツ演習2 (スポーツマネジメント)	2・3・4前	2								
		生涯スポーツ演習3 (スポーツビジネス)	2・3・4前	2			0 +					
		生涯スポーツ演習4 (子どものスポーツ活動)	2・3・4前	2				1				
		生涯スポーツ演習5 (高齢者・要介護者のスポーツ活動)	2・3・4前	2			1					
		生涯スポーツ演習6 (野外活動・教育)	2・3・4前	2					1			
		生涯スポーツ演習7 (健康運動指導等研修 (事前事後指導を含む))	未開講 2・3・4前	2			1					
		c 科 目 群	履修希望者がいなかったため (29)									
履修希望者がいなかったため (29)												
履修希望者がいなかったため (29)												
履修希望者がいなかったため (29)												
履修希望者がいなかったため (29)												
履修希望者がいなかったため (29)												
履修希望者がいなかったため (29)												
履修希望者がいなかったため (29)												
履修希望者がいなかったため (29)												
履修希望者がいなかったため (29)												

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					備 考		
			必 修	選 択	自 由	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手			
専 門 教 育 科 目	A 群 コ ー チ ン グ 系	種目別コーチング演習1 (陸上競技: 短距離・障害)	3・4通	4			1	1					(オムニバス方式)
		種目別コーチング演習2 (陸上競技: 長距離・駅伝)	3・4通	4			1	1					兼 1 (オムニバス方式)
		種目別コーチング演習3 (水泳)	3・4通	4			1	1					
		種目別コーチング演習4 (スケート)	3・4通	4			1	1					
		種目別コーチング演習5 (バスケットボール)	3・4通	4			1	1					兼 1
		種目別コーチング演習6 (サッカー)	3・4通	4			1	1					
		種目別コーチング演習7 (ラグビー)	3・4通	4			1	1					兼 1
		種目別コーチング演習8 (ホッケー)	3・4通	4			2	1					(オムニバス方式)
		種目別コーチング演習9 (バレーボール)	3・4通	4			1	1					(オムニバス方式)
		種目別コーチング演習10 (ソフトボール)	3・4通	4			1	1					兼 1
		種目別コーチング演習11 (柔道)	3・4通	4			1	1					兼 1
		種目別コーチング演習12 (レスリング)	3・4通	4			1	1					兼 1
		種目別コーチング演習13 (空手道)	3・4通	4			1	1					兼 1
	B 群 競 技 ス ポ ー ツ サ ポ ー ト 系	競技スポーツサポート演習1 (マネジメント)	3・4後	2			1						
		競技スポーツサポート演習2 (バイオメカニクス)	3・4後	2			1		1				
		競技スポーツサポート演習3 (戦術・ゲーム分析)	3・4後	2			1						
		競技スポーツサポート演習4 (体力)	3・4後	2			1		1				
		競技スポーツサポート演習5 (心理)	3・4後	2			1		1				
		競技スポーツサポート演習6 (傷害)	3・4後	2			1		1				
	C 群 生 涯 ス ポ ー ツ サ ポ ー ト 系	生涯スポーツサポート演習1 (スポーツプロモーション)	3・4後	2			1						
		生涯スポーツサポート演習2 (スポーツマーケティング)	3・4後	2			0						平成29年3月 入江省熙教授退職 (29) 入江省熙教授の退職により、教員を追加 (29) 〔担当 小山さなえ (教授) 平成29年6月 AC教員審査提出予定〕
		生涯スポーツサポート演習3 (子どもスポーツ)	3・4後	2			1		1				
		生涯スポーツサポート演習4 (高齢者スポーツ)	3・4後	2			1						
		生涯スポーツサポート演習5 (障がい者スポーツ)	3・4後	2			1						
		生涯スポーツサポート演習6 (野外活動・教育)	3・4後	2			1			1			
	D 群 教 職 (保 健 体 育 系	保健体育科教育法1 (体育)	2・3・4前	2			1						
		保健体育科教育法2 (保健)	2・3・4後	2			1						兼 1
		介護等体験実習 (事前事後指導を含む)	2・3・4前	2			1						
		保健体育科指導論	2・3・4後	2			2						(オムニバス方式)
		体育科内容・指導論1 (体育理論)	2・3・4前	2			1		1	1			(オムニバス方式)
		体育科内容・指導論2 (体育実技)	2・3・4前	2			2		1	1			(オムニバス方式)
		保健科内容・指導論	2・3・4後	2			1						
	学校保健学 (小児保健、精神保健、学校安全及び緊急処置を含む)	2・3・4前	2			1						兼 1	
E 群 ス ポ ー ツ 英 語 系	衛生学 (公衆衛生学を含む)	2・3・4後	2			1						兼 1	
	スポーツ英語 a 1 (会話)	2・3・4前	2			1							
	スポーツ英語 a 2 (会話)	2・3・4後	2			1							
	スポーツ英語 a 3 (会話)	2・3・4前	2			1			1				
	スポーツ英語 a 4 (会話)	2・3・4後	2			1			1				
	スポーツ英語 b 1 (読解)	2・3・4前	2			1			1				
	スポーツ英語 b 2 (読解)	2・3・4後	2			1			1				
	スポーツ英語 b 3 (読解)	2・3・4後	2			1		1					
スポーツ英語 b 4 (読解)	2・3・4前	2			1								

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
教職専門科目	教職概論	2前			2							兼1	兼2 兼4 教職課程認定の結果、オムニバス方式に変更。上記の理由により、天沼英雄兼担教授に加え中野隆司兼任講師の2人で担当する。(オムニバス方式) (28) 兼1 教職課程認定の結果、授業科目名を変更。(28) 兼1 兼2 教職課程認定の結果、複数教員のクラス分け方式に変更。上記の理由により、天沼英雄兼担教授に加え百瀬光一兼担教授の2人でクラス分けを行い、それぞれ担当する。(28) 兼1 兼1 教職課程認定の結果、担当者を変更。田沼朗兼任講師に代わり百瀬光一兼担教授が担当。(28) 兼1 兼2 兼4 教職課程認定の結果、オムニバス方式に変更。上記の理由により、田沼朗兼任講師に加え遠藤清香兼任講師の2人で担当する。(オムニバス方式) (28) 兼1 兼2 兼1 兼3
	子どもの発達と社会Ⅰ	2前			2							兼2	
	子どもの発達と社会Ⅱ	2後			2							兼1	
	学校と教育の歴史	3前			2							兼1	
	教育史	3前			2							兼2	
	教育課程論	2後			2							兼4	
	道徳教育指導論	3後			2							兼1	
	特別活動論	2前			2							兼1	
	教育方法論	2後			2							兼1	
	生徒指導・教育相談	2前			2							兼2	
	進路指導論	2後			2							兼4	
	教育実習研修	4前			2		1					兼1	
	教育実習Ⅰ	4前			2		1					兼2	
	教育実習Ⅱ	4前			2		1					兼1	
教職実践演習(中・高)	4後			2	1	1					兼3		

- (注) ・ 認可申請書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 設置認可時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成28年度に認可(届出)された大学等は設置認可(届出)時より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
 - ・ なお、昨年度の報告書において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 兼任、兼担の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼〇」と記入してください。
 - ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査予定年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。)
 - ・ 「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等(平成19年度認可以前)についても、設置認可時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
4	154	14	172	4	154	14	172	
				[0]	[0]	[0]	[0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
	未開講科目なし					

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず, 何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については, 記入しないでください。
 ・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
	廃止科目なし					

- (注) ・ 設置時の計画にあり, 何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし。

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{172} = \boxed{}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位までを記入してください。
 ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が, 「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考		
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	山梨学院短期大学と共用		
	校舎敷地	0 m ²	84,080 m ²	0 m ²	84,080 m ²			
	運動場用地	0 m ²	120,113 m ²	0 m ²	120,113 m ²			
	小 計	0 m ²	204,193 m ²	0 m ²	204,193 m ²			
	そ の 他	0 m ²	47,189 m ²	0 m ²	47,189 m ²			
	合 計	0 m ²	251,382 m ²	0 m ²	251,382 m ²			
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	山梨学院短期大学と共用		
		30,813.66 m ² (30,813.66 m ²)	9,838.25 m ² (9,838.25 m ²)	10,867.00 m ² (10,867.00 m ²)	51,518.91 m ² (51,518.91 m ²)			
(3) 教 室 等		講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設		
		55 室	33 室	25 室	6 室 (補助職員 4人)	2 室 (補助職員 3人)		
(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称			室 数			
		スポーツ科学部 スポーツ科学科			21 室			
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	図書資料、視聴覚資料の増加分は、新規購入による。(29)
	スポーツ科学部 スポーツ科学科	7,646 [800] 7,636 [790] (7,590 [800]) (7,373 [788])	31 [2] (14 [0])	0 [0] (0 [0])	197 (197)	740 (541)	0 (0)	
	計	7,646 [800] 7,636 [790] (7,590 [800]) (7,373 [788])	31 [2] (14 [0])	0 [0] (0 [0])	197 (197)	740 (541)	0 (0)	
(6) 図 書 館		面 積	閱 覧 座 席 数	収 納 可 能 冊 数		山梨学院短期大学と共用		
		3,984.22 m ²	494席	約 31万冊				
(7) 体 育 館		面 積	体育館以外のスポーツ施設の概要			山梨学院短期大学と共用 武道館：大学専用		
		4,264.00 m ²	武道館 3,008.77 m ²					
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員1人当たり研究費等	430千円	430千円	図書購入費	379千円	194千円	49千円
		共同研究費等	79千円	79千円	設備購入費	145,659千円	33,002千円	0千円
	学生1人当たり納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		1,395千円	1,195千円	1,195千円	1,195千円	千円	千円	
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常経費補助金、手数料収入、等。						

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成29年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(29)」を「備考」に赤字で記入してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学の名称	山梨学院大学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入定学員	編入学員	収容量	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
スポーツ科学部 スポーツ科学科	4	170	—	340	学士 (スポーツ科学)	1.18	平成28年度	山梨県甲府市酒折二丁目4-5	
法学部	4	370	—	1,550	—	1.09	昭和37年度	同上	
法学科	4	200	—	870	学士 (法学)	1.13	昭和37年度	同上	
政治行政学科	4	170	—	680	学士 (政治行政学)	1.04	平成3年度	同上	
現代ビジネス学部 現代ビジネス学科	4	200	—	800	学士 (商学)	1.13	昭和40年度	同上	
経営情報学部 経営情報学科	4	—	—	—	学士 (経営情報学)	—	平成6年度	同上	平成28年度より学生募集停止
健康栄養学部 管理栄養学科	4	40	3年次 10	180	学士 (栄養学)	1.19	平成22年度	同上	
国際リベラルアーツ学部 国際リベラルアーツ学科	4	80	—	240	学士 (国際リベラルアーツ)	0.36	平成27年度	同上	
大学の名称	山梨学院大学大学院								備考
既設学部等の名称	修業年限	入定学員	編入学員	収容量	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
社会科学研究科 公共政策専攻 (修士課程)	2	20	—	40	修士 (公共政策)	0.80	平成7年度	山梨県甲府市酒折二丁目4-5	
法務研究科 法務専攻 (専門職学位課程： 法科大学院)	3	—	—	—	法務博士 (専門職)	—	平成16年度	同上	平成28年度より学生募集停止

大学の名称	山梨学院短期大学								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 定 学 員	編 入 学 員	収 容 員	学位又 は称号	平均入 学 定 員 超 過 率	開 年 設 度	所 在 地	
食物栄養科	2 年	110 人	— 年次 人	220 人	短期大学士 (食物栄養学)	0.87 倍	昭和23年度	山梨県甲府市酒折二丁目4-5	
保 育 科	2	150	—	300	短期大学士 (保育学)	1.09	昭和42年度	同上	
専攻科 保育専攻	2	15	—	30	—	1.23	平成14年度	同上	大学評価・学位授与機構の 認定専攻科（平成14年4月）

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者（学校法人等）が設置している全ての大学（学部、学科）、大学院（専攻）及び短期大学（学科）（AC対象学部等含む）について、それぞれの学校種ごとに、平成29年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
 - ※「入学定員を定めている組織ごと」には、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ※なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている組織上の最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）でも記載してください。
 - ・専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。
 - ・AC対象学部等についても必ず記入してください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで（小数点以下第3位を切り捨て）を記入してください。
 - ・学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「—」とし、「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<スポーツ科学部 スポーツ科学科>

(1) 担当教員表

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授	遠藤 俊郎 (61)	平成28年4月	スポーツ心理学 スポーツ専門演習1 スポーツ専門演習2 スポーツコミュニケーション論 競技スポーツ心理論 種目別コーチング演習9(バレーボール)※						
専	教授	麻場 一徳 (55)	平成28年4月	スポーツ基礎演習 コーチング論(運動学、運動方法学を含む) 実技実習a4(陸上競技:短距離・跳躍・投てき)※ スポーツ専門演習1 スポーツ専門演習2 競技スポーツマネジメント論※ 競技スポーツ演習1(マネジメント) 競技スポーツサポート演習1(マネジメント) 種目別コーチング演習1(陸上競技:短距離・障害)※ 保健体育科指導論※						
専	教授	入江 省熙 (56)	平成28年4月	スポーツ経営学※ スポーツ専門演習1 スポーツ専門演習2 スポーツビジネス論 スポーツマーケティング論 生涯スポーツ演習3(スポーツビジネス) 生涯スポーツサポート演習2(スポーツマーケティング)	専	教授	小山さなえ (48)	平成30年4月	スポーツ経営学※ スポーツ専門演習1 スポーツ専門演習2 スポーツビジネス論 スポーツマーケティング論 生涯スポーツ演習3(スポーツビジネス) 生涯スポーツサポート演習2(スポーツマーケティング)	平成29年3月 入江省熙教授退職(29) 平成29年6月 小山さなえ教授 (新規採用) AC教員審査提出予定
					兼任	講師	霜島 広樹 (38)	平成29年4月	スポーツ経営学※ スポーツビジネス論 スポーツマーケティング論 生涯スポーツ演習3(スポーツビジネス)	平成28年3月、入江省熙教授退職のため、平成29年度より担当者の変更(29)

専	教授	上田 誠仁 (57)	平成28年4月	スポーツキャリア形成 実技実習 a 5 (陸上競技:長距離)※ 競技スポーツトレーニング論※ 種目別コーチング演習2 (陸上競技:長距離・駅伝)※						
専	教授	川上 隆史 (63)	平成28年4月	実技実習 a 7 (スケート) 競技スポーツマネジメント論※ 種目別コーチング演習4 (スケート)						
専	教授	神田 忠彦 (57)	平成28年4月	スポーツキャリア形成 実技実習 a 6 (水泳・水中運動) 競技スポーツ情報戦略論※ 種目別コーチング演習3 (水泳)						
専	教授	三本木 温 (47)	平成28年4月	スポーツ基礎演習 スポーツ専門演習1 スポーツ専門演習2 健康体力論 高齢者スポーツ論 (要介護者を含む) 生涯スポーツ演習5 (高齢者・要介護者のスポーツ活動) 生涯スポーツサポート演習4 (高齢者スポーツ) 体育科内容・指導論1 (体育理論)※						
専	教授	SHEAHAN, John Patrick (44)	平成28年4月	実技実習 b 4 (ホッケー)※ 競技スポーツ戦術論※ 競技スポーツ演習3 (ゲーム分析) 競技スポーツサポート演習3 (戦術・ゲーム分析) 種目別コーチング演習8 (ホッケー)※ スポーツ英語 a 1 (会話) スポーツ英語 a 2 (会話) スポーツ英語 b 4 (読解)						
専	教授	下村 義夫 (67)	平成29年4月	スポーツ専門演習1 スポーツ専門演習2 保健体育科指導論※ 保健科内容・指導論 教職実践演習 (中・高)						

専	教授	高田 裕司 (62)	平成28年4月	実技実習c2 (レスリング) 競技スポーツマネジメント論※ 種目別コーチング演習12 (レスリング)	専	教授	高田 裕司 (63)	平成28年4月	実技実習c2 (レスリング) 競技スポーツマネジメント論※ 種目別コーチング演習12 (レスリング)	運営上の安全性に配慮し前期から後期に変更。(28)
専	教授	谷口裕美子 (堤 裕美子) (46)	平成28年4月	スポーツキャリア形成 実技実習d1 (野外活動: キャンプ) 実技実習d3 (野外活動: 雪上) スポーツ専門演習1 スポーツ専門演習2 障がい者競技スポーツ論 障がい者スポーツ論 生涯スポーツ演習7 (健康運動指導等研修(事前事後指導を含む)) 生涯スポーツサポート演習5 (障がい者スポーツ)						
専	教授	塚田 雄二 (58)	平成28年4月	スポーツキャリア形成 実技実習b2 (サッカー) 競技スポーツ情報戦略論※ 種目別コーチング演習6 (サッカー)						
専	教授	寺本 祐治 (52)	平成28年4月	スポーツキャリア形成 実技実習b4 (ホッケー)※ 競技スポーツコーチング論※ 競技スポーツトレーニング論※ 種目別コーチング演習8 (ホッケー)※	専	教授	寺本 祐治 (53)	平成28年4月	スポーツキャリア形成 実技実習b4 (ホッケー)※ 競技スポーツコーチング論※ 競技スポーツトレーニング論※ 種目別コーチング演習8 (ホッケー)※	運営上の安全性に配慮し後期から前期に変更。(28)
専	教授	森 幸也 (54)	平成28年4月	人間と科学 I 人間と科学 II						

専	准教授	太田 涼 (43)	平成28年4月	<p>情報処理（統計を含む）</p> <p>実技実習 a 1（トレーニング/体づくり運動）</p> <p>実技実習 a 4（陸上競技：短距離・跳躍・投てき）※</p> <p>スポーツ専門演習 1</p> <p>スポーツ専門演習 2</p> <p>競技スポーツコーチング論※</p> <p>種目別コーチング演習 1（陸上競技：短距離・障害）※</p> <p>子どもスポーツ論</p> <p>生涯スポーツ演習 4（子どものスポーツ活動）</p> <p>生涯スポーツサポート演習 3（子どもスポーツ）</p> <p>体育科内容・指導論 2（体育実技）※</p>					
専	准教授	笠野 英弘 (34)	平成28年4月	<p>スポーツ社会学</p> <p>スポーツ経営学※</p> <p>スポーツ専門演習 1</p> <p>スポーツ専門演習 2</p> <p>現代スポーツ論</p> <p>生涯スポーツ政策論</p> <p>生涯スポーツプロモーション論</p> <p>生涯スポーツ演習 1（スポーツプロモーション）</p> <p>生涯スポーツサポート演習 1（スポーツプロモーション）</p> <p>体育科内容・指導論 1（体育理論）※</p>					
専	准教授	中垣 浩平 (35)	平成28年4月	<p>スポーツ生理学</p> <p>体力論</p> <p>情報処理（統計を含む）</p> <p>実技実習 d 2（野外活動：水辺）</p> <p>スポーツ専門演習 1</p> <p>スポーツ専門演習 2</p> <p>競技スポーツ体力論</p> <p>競技スポーツ演習 4（体力）</p> <p>競技スポーツサポート演習 4（体力）</p> <p>スポーツ英語 b 3（読解）</p>					

専	准教授	三井 勇 (60)	平成28年4月	スポーツ教育論 スポーツ専門演習1 スポーツ専門演習2 保健体育科教育法1 (体育) 教育実習研修 教育実習I 教育実習II 教職実践演習(中・高) 介護等体験実習(事前事後指導を含む)						
専	准教授	安田 貢 (46)	平成28年4月	情報処理(統計を含む) 実技実習b5(バレーボール) スポーツ専門演習1 スポーツ専門演習2 競技スポーツ技術論※ 競技スポーツ演習5(心理) 種目別コーチング演習9(バレーボール)※ 健康心理論 競技スポーツサポート演習5(心理) 体育科内容・指導論2(体育実技)※						
専	講師	苅山 靖 (31)	平成28年4月	スポーツバイオメカニクス(機能解剖学を含む) 情報処理(統計を含む) 実技実習a1(トレーニング/体づくり運動) 実技実習a4(陸上競技:短距離・跳躍・投てき)※ スポーツ専門演習1 スポーツ専門演習2 競技スポーツ技術論※ 競技スポーツ演習2(バイオメカニクス) 競技スポーツサポート演習2(バイオメカニクス) 体育科内容・指導論1(体育理論)※ スポーツ英語b1(読解) スポーツ英語b2(読解)						

専	講師	岸 邦彦 (47)	平成28年4月	スポーツ傷害論 情報処理(統計を含む) スポーツ専門演習1 スポーツ専門演習2 競技スポーツ傷害論 競技スポーツ演習6 (傷害) 競技スポーツサポート 演習6(傷害) スポーツ英語a3 (会話) スポーツ英語a4 (会話)						
専	講師	東山 昌央 (34)	平成28年4月	スポーツ基礎演習 野外活動・教育論 実技実習d1(野外 活動:キャンプ) 実技実習d2(野外 活動:水辺) 実技実習d3(野外 活動:雪上) スポーツ専門演習1 スポーツ専門演習2 レクリエーション論 生涯スポーツ演習6 (野外活動・教育) 生涯スポーツサポ ート演習6(野外活 動・教育) 体育科内容・指導論 2(体育実技)※						
兼任	教授	天沼 英雄 (64)	平成28年4月	教育と社会I 教育と社会II 教職概論 子どもの発達と社会 I 子どもの発達と社会 II 教育課程論 教職実践演習(中・ 高)	兼任	教授	天沼 英雄 (65)	平成28年4月	教育と社会I 教育と社会II 教職概論 子どもの発達と社会 I※ 子どもの発達と社会 II 教育課程論 教職実践演習(中・ 高)	教職課程認定の結果、オムニバス方式 に変更。(28)
兼任	教授	梅崎 英毅 (51)	平成28年4月	スポーツキャリア形 成 実技実習b1(バス ケットボール) 競技スポーツ戦術論 ※ 種目別コーチング演 習5(バスケット ボール)						
兼任	教授	小菅 信子 (55)	平成28年4月	平和学I 平和学II						

兼任	教授	塩沢 一平 (54)	平成28年4月	日本の古典の世界Ⅰ 日本の古典の世界Ⅱ 現代日本文化と東アジアⅠ 現代日本文化と東アジアⅡ	兼任	講師	塩沢 一平 (55)	平成28年4月	日本の古典の世界Ⅰ 日本の古典の世界Ⅱ 現代日本文化と東アジアⅠ 現代日本文化と東アジアⅡ	塩沢一平兼任教授平成28年4月より他大学に移籍のため身分を兼任講師に変更し担当。(28)
					兼任	講師	山崎 健太 (33)	平成29年4月	日本の古典の世界Ⅰ 日本の古典の世界Ⅱ 現代日本文化と東アジアⅠ 現代日本文化と東アジアⅡ	塩沢一平兼任講師が平成29年3月末にて退職したため、平成29年4月より山崎健太兼任講師が担当。(29)
兼任	教授	数住 伸一 (61)	平成28年4月	観光・ホスピタリティ概論						
兼任	教授	内藤 統也 (49)	平成28年4月	自然の探求Ⅰ 自然の探求Ⅱ						
兼任	教授	原 百年 (47)	平成28年4月	異文化コミュニケーション						
兼任	教授	藤井まさ子 (59)	平成28年4月	食生活と健康※						
兼任	教授	百瀬 光一 (51)	平成28年4月	学校と子どもⅠ 学校と子どもⅡ 道徳教育指導論 教育方法論 教職実践演習(中・高)	兼任	教授	百瀬 光一 (52)	平成28年4月	学校と子どもⅠ 学校と子どもⅡ 道徳教育指導論 教育方法論 教職実践演習(中・高)	教職課程認定の結果、百瀬光一兼任教授を担当者に追加(クラス分け)。(28)
兼任	准教授	河野 誠哉 (46)	平成28年4月	青年と社会 生活世界の探究 教育史 教職実践演習(中・高)	兼任	教授	河野 誠哉 (47)	平成28年4月	青年と社会 生活世界の探究 教育史 教職実践演習(中・高)	平成28年4月1日付、経営情報学部経営情報学科教授に昇格。(28)
兼任	准教授	古閑美奈子 (41)	平成28年4月	食生活と健康※						
兼任	准教授	清水 正 (53)	平成28年4月	スポーツ基礎演習 実技実習b7(ソフトボール) 競技スポーツコーチング論※ 種目別コーチング演習10(ソフトボール)	兼任	教授	清水 正 (54)	平成28年4月	スポーツ基礎演習 実技実習b7(ソフトボール) 競技スポーツコーチング論※ 種目別コーチング演習10(ソフトボール)	平成28年4月1日付、法学部法学科教授に昇格。(28)
兼任	准教授	鈴木 敦 (34)	平成28年4月	法学(日本国憲法)						
兼任	准教授	長倉 富貴 (48)	平成28年4月	生涯スポーツマネジメント論 生涯スポーツ演習2(スポーツマネジメント)						
兼任	准教授	山部 伸敏 (46)	平成28年4月	スポーツ基礎演習 実技実習o1(柔道) 競技スポーツ情報戦略論※ 種目別コーチング演習11(柔道)						

兼任	准教授	吉田 浩二 (39)	平成28年4月	スポーツ基礎演習	兼任	准教授	吉田 浩二 (50)	平成28年4月	スポーツ基礎演習		
				実技実習b3(ラグビー)					実技実習b3(ラグビー)	学生の履修の便に資するため、後期のほか前期にも開講することとして変更。(29)	
				競技スポーツトレーニング論※					競技スポーツトレーニング論※		
				種目別コーチング演習7(ラグビー)					種目別コーチング演習7(ラグビー)		
兼任	准教授	吉野 美香 (川上 美香) (38)	平成28年4月	スポーツ栄養学 食生活と健康※							
兼任	講師	飯島 理彰 (44)	平成28年4月	スポーツ基礎演習	兼任	准教授	飯島 理彰 (45)	平成28年4月	スポーツ基礎演習	平成28年4月1日付、現代ビジネス学部現代ビジネス学科准教授に昇格。(28)	
				実技実習a5(陸上競技:長距離)※					実技実習a5(陸上競技:長距離)※		
				競技スポーツ戦術論※					競技スポーツ戦術論※		
				種目別コーチング演習2(陸上競技:長距離・駅伝)※					種目別コーチング演習2(陸上競技:長距離・駅伝)※		
兼任	講師	片田 貴士 (34)	平成28年4月	スポーツ基礎演習	兼任	講師	片田 貴士 (35)	平成28年4月	スポーツ基礎演習	学生の履修の便に資するため、後期のほか前期にも開講することとして変更。(29)	
				実技実習c3(空手道)					実技実習c3(空手道)		
				競技スポーツ技術論※					競技スポーツ技術論※		
				種目別コーチング演習13(空手道)					種目別コーチング演習13(空手道)		
兼任	講師	秋山 満貴 (47)	平成28年4月	日本語Ⅰ(外国人留学生対象)							
				日本語Ⅱ(外国人留学生対象)							
				日本語Ⅲ(外国人留学生対象)							
				日本語Ⅳ(外国人留学生対象)							
兼任	講師	雨宮 哲夫 (58)	平成28年4月	音楽と文化Ⅰ							
				音楽と文化Ⅱ							
兼任	講師	石川 三知 (奥野 三知) (50)	平成29年4月	競技スポーツ栄養論							
兼任	講師	石毛 径子 (52)	平成28年4月	英語Ⅰ							
				英語Ⅱ							
				英語Ⅲ							
				英語Ⅳ							
兼任	講師	一瀬 拓樹 (35)	平成28年4月	日本語Ⅰ(外国人留学生対象)						一瀬拓樹兼任講師本学職員として採用の理由により就任辞退。他に担当教員が4人いるため、支障はない。(28)	
				日本語Ⅱ(外国人留学生対象)							
				日本語Ⅲ(外国人留学生対象)							
				日本語Ⅳ(外国人留学生対象)							
兼任	講師	内田 光枝 (62)	平成28年4月	英語Ⅰ							
				英語Ⅱ							
				英語Ⅲ							
				英語Ⅳ							

兼任	講師	小野 勝 (54)	平成28年4月	英語Ⅰ 英語Ⅱ 英語Ⅲ 英語Ⅳ						
兼任	講師	川上 琴美 (62)	平成28年4月	実技実習a2(ダンス)						
兼任	講師	倉澤 一孝 (43)	平成28年4月	経済学Ⅰ 経済学Ⅱ	兼任	准教授	倉澤 一孝 (44)	平成28年4月	経済学Ⅰ 経済学Ⅱ	倉澤一孝兼任講師を平成28年4月より本学現代ビジネス学部現代ビジネス学科に採用のため身分を兼任准教授に変更し担当。(28)
兼任	講師	小山 勝弘 (47)	平成29年4月	保健体育科教育法2(保健) 学校保健学(小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む)						
兼任	講師	進藤 聡彦 (58)	平成28年4月	心理学Ⅰ 心理学Ⅱ						
兼任	講師	新保 淳 (58)	平成28年4月	スポーツ哲学(体育原理を含む)						
兼任	講師	瀬戸 邦弘 (43)	平成28年4月	スポーツ史						
兼任	講師	田代 葉子 (51)	平成28年4月	英語Ⅰ 英語Ⅱ 英語Ⅲ 英語Ⅳ						
兼任	講師	田沼 朗 (62)	平成29年4月	特別活動論	兼任	教授	百瀬 光一 (52)	平成28年4月	特別活動論	教職課程認定の結果、田沼朗兼任講師に代わり百瀬光一兼任教授(前掲)が担当。(28)
				生徒指導・教育相談 進路指導論	兼任	講師	田沼 朗 (63)	平成29年4月	生徒指導・教育相談※ 進路指導論	教職課程認定の結果、遠藤清香兼任講師とのオムニバス方式に変更。(28)
兼任	講師	辻 政雄 (64)	平成28年4月	生物と環境Ⅰ 生物と環境Ⅱ						
兼任	講師	富岡 好平 (58)	平成28年4月	実技実習b6(テニス)						
兼任	講師	富田美知子 (66)	平成28年4月	日本語Ⅰ(外国人留学生対象) 日本語Ⅱ(外国人留学生対象) 日本語Ⅲ(外国人留学生対象) 日本語Ⅳ(外国人留学生対象)						
兼任	講師	野澤 里栄 (46)	平成28年4月	英語Ⅰ 英語Ⅱ 英語Ⅲ 英語Ⅳ						

兼任	講師	野田 金男 (66)	平成28年4月	富士山と観光	兼任	講師	古屋 亮 (45)	平成28年4月	富士山と観光	野田金男兼任講師健康上の理由により 就任辞退。古屋亮兼任講師(「観光と 自然保護」担当者:後掲)が代わって 担当。(28)
兼任	講師	原田かおり (43)	平成28年4月	日本語Ⅰ(外国人留 学生対象) 日本語Ⅱ(外国人留 学生対象) 日本語Ⅲ(外国人留 学生対象) 日本語Ⅳ(外国人留 学生対象)						
兼任	講師	藤野 郁子 (63)	平成28年4月	日本語Ⅰ(外国人留 学生対象) 日本語Ⅱ(外国人留 学生対象) 日本語Ⅲ(外国人留 学生対象) 日本語Ⅳ(外国人留 学生対象)						
兼任	講師	藤本 俊 (65)	平成28年4月	実技実習 a3(器械 運動)						
兼任	講師	古屋 亮 (44)	平成28年4月	観光と自然保護						
兼任	講師	宮村 季浩 (52)	平成28年4月	スポーツ医学 衛生学(公衆衛生学 を含む)						
兼任	講師	望月 海慧 (53)	平成28年4月	宗教と人間Ⅰ 宗教と人間Ⅱ						
					兼任	講師	遠藤 清香 (44)	平成29年4月	生徒指導・教育相談※	教職課程認定の結果、田沼朗兼任講師 (前掲)に遠藤清香兼任講師を追加 し、オムニバス方式に変更。(28)
					兼任	講師	中野 隆司 (58)	平成29年4月	子どもの発達と社会 I※	教職課程認定の結果、天沼英雄兼担 教授(前掲)に中野隆司兼任講師を追加 し、オムニバス方式に変更。(28)

- (注)
- 申請書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
 - 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
 - 年齢は、「**設置時の計画**」には**当該学部等の就任時における満年齢**を、「**変更状況**」には**平成29年5月1日現在の満年齢**を記入してください。
 - 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。
 - 認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」、変更書を提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。
なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「(教員審査省略)」及びその変更の理由、変更年度()書き等のみを記入してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数
15 名	8 名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一により算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数

設置時の計画					現在（報告書提出時）の状況					現在（報告書提出時）の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計	教授	准教授	講師	助教	計(A)	教授	准教授	講師	助教	計(B)
14	5	3	0	23	13	5	3	0	22	14	5	3	0	23
(13)	(5)	(3)	(0)	(22)	[Δ1]	[0]	[0]	[0]	[Δ1]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告書提出時）の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告書提出時）の完成年度時の計画」には、報告書提出年度の5月1日現在、完成年度時に計画している教員数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告書提出時（上記(A)）の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記(B)）の教員うち、定年を延長して採用する教員数
65 歳	1 名	1 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、平成29年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由	
		該当なし					
合計 (A)				後任補充状況の集計 (B)			
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
1	教授	入江 省照	選択	スポーツ経営学	①・②	一身上の都合のため辞任 (29)	
			必修	スポーツ専門演習1	①		
			必修	スポーツ専門演習2	①		
			選択	スポーツビジネス論	①・②		
			選択	スポーツマーケティング論	①・②		
			選択	生涯スポーツ演習3 (スポーツビジネス)	①・②		
			選択	生涯スポーツサポート演習2 (スポーツマーケティング)	①		
合計 (C)				後任補充状況の集計 (D)			
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
1	人	必修	2 科目	必修	2 科目	必修	0 科目
		選択	5 科目	選択	5 科目	選択	4 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	7 科目	計	7 科目	計	4 科目

- (注) ・ 一度就任した後に、辞任した全ての専任教員の辞任の理由を具体的に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (A) + (C)				後任補充状況の集計 (B) + (D)			
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
1	人	必修	2 科目	必修	2 科目	必修	0 科目
		選択	5 科目	選択	5 科目	選択	4 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	7 科目	計	7 科目	計	4 科目

- (注) ・ 就任辞退（未就任）及び辞任した全専任教員について、教員数、担当科目数の合計、後任補充の状況を記入ください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

就任後、満1年で辞職した入江省熙教授に関しては、辞職理由が一身上の都合（本人のプライバシーに関する事項）であり、本学としては再三にわたり慰留したが本人の辞職の意思は固く、平成29年3月31日を以っての退職を認めざるを得なかった。

入江省熙教授の辞職の意思を確認の後、速やかに、平成30年4月就任予定として入江教授担当科目の全てを担当する専任教員を公募し候補者を絞り込むとともに、係る者（小山さなえ教授）については平成29年6月に予定のAC教員資格審査を受審する予定としている。また、この手続の間の学生の学修権を保障するため、第2年次配当までの科目として開講する必要がある「スポーツ経営学」「スポーツビジネス論」「スポーツマーケティング論」「生涯スポーツ演習3（スポーツビジネス）」に関しては、専任教員確定までの移行措置として、平成29年度においては霜島広樹兼任講師を追加し、対応することとした。

これらの事項に関する学生への説明に関しては、平成29年4月の授業開始前に実施する「新入生オリエンテーション」及び「在学生ガイダンス」において詳細説明を行い、学生の同意を得ている。（29）

(注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
<p>設 置 時 (平成26年10月)</p>	<p>1. 課外活動を「正課の授業の補完的活動」として位置付けると説明しているが、「補完的活動」の具体的趣旨が明確でなく、課外活動が正課教育に対してどのような位置付けで置かれているのか不明瞭である。そのため、課外活動の位置付けについて、正課教育による学修成果を踏まえた正課教育の延長線上にあるものか、又は正課教育における学修成果と直接的な関連性を有さない一般的な活動にとどまるのかを明確にして、正課教育と課外活動の関係を整理すること。なお、課外活動が正課教育の延長線上にあると位置付けるのであれば、課外活動への参加を単に「奨励する」だけでなく、学生が積極的に課外活動に参加するような具体的な履修指導を検討するとともに、課外活動に参加しない学生に対してどのような措置を講ずるか検討すること。</p>	<p>課外活動の位置付けに関しては「正課の授業における学修成果と直接的な関連性を有さない一般的な活動にとどまる」ものとして位置づけたい。え、とくにスポーツ関連の課外活動（クラブ活動、サークル活動、イベントなどのボランティア活動）に参加する学生には、授業で学んだ内容を直ちに課外活動を通じて再確認し、知識偏重に陥らないよう指導に努めることを意図している。これは、OECDが1999年～2002にかけて行った「能力の定義と選択」（DeSeCo）プロジェクトの成果として示される「キー・コンピテンシー」、即ち</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会・文化的、技術的ツールを相互作用的に活用する能力（個人と社会との相互関係） 2. 多様な社会グループにおける人間関係形成能力（自己と他者との相互関係） 3. 自律的に行動する能力（個人の自律性と主体性） <p>を学生に意識させるための配慮である。</p> <p>設置認可申請書の「設置の趣旨等を記載した書類」において「正課の授業を補完するものとして、様々な教育的意味をもつスポーツ関連の課外活動を重視している。」としたのは、「正課の授業」と「課外活動」を明確に区分したうえで、「正課の授業」で学んだ内容を「課外活動」等を通じて再確認させる機会を学生に積極的に活用させ、卒業後のコンピテンスを培うことを意味している。従って、「課外活動」は、「正課の授業」の延長線上には存在しない。</p> <p>また、課外活動に関しては、学生の自由な選択意思（動機づけ）に基づく任意参加であることを踏まえ、課外活動への参加は「奨励」のみに留めるが、このほか、地域で開催されるスポーツに関わるボランティア活動等の紹介なども積極的にを行い、「正課の授業」に臨む時間を除く自由時間を有効に活用し、生きる力を育めるよう指導に努める。</p> <p>なお、年度初めの新入生オリエンテーションにおいては、「正課の授業」と「課外活動」を明確に区分のうえ（「課外活動」が「正課の授業」の延長線上には存在しないことを明らかにしたうえで）、課外活動、あるいはその他の社会的活動（地域において実施されるスポーツに関わるボランティア活動等）に積極的に参加するよう、啓蒙を行った。（28）</p> <p>平成29年度においても、年度初めの新入生オリエンテーション及び在学生（第2年次生）ガイダンスにおいて、「正課の授業」と「課外活動」を明確に区分のうえ（「課外活動」が「正課の授業」の延長線上には存在しないことを明らかにしたうえで）、課外活動、あるいはその他の社会的活動（地域において実施されるスポーツに関わるボランティア活動等）に積極的に参加するよう、学生に啓蒙を行った。（29）</p>	

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
<p>設置時 (平成26年10月)</p>	<p>2.個性の重視と自律心の育成のために履修指導を充実させて必修科目を少なくしていることについて、一定程度説明がなされてはいるが、担当教員による個別の履修指導のみで実現できるのか懸念される。選択必修科目を多く設けているとはいえ学生が自由に選択できる科目であり、学生各自が将来の進路に応じて体系的な学修を自ら選択できるようにすることと個性の重視・自律心の育成の両立を履修指導により実現させるのであれば丁寧な履修指導が必要であると思われるため、全ての学生に対しての十分な履修指導の実施を検討し、着実に実施すること。</p>	<p>留意事項</p>	<p>留意事項を踏まえ、個性の重視と自律心の育成のために履修指導を充実させて必修科目を少なくしていることについて、選択必修科目を多く設けているとはいえ学生が自由に選択できる科目であり、学生各自が将来の進路に応じて体系的な学修を自ら選択できるようにすることと個性の重視・自律心の育成の両立を履修指導により実現させるのであれば丁寧な履修指導が必要である。このような認識に立ち、全ての学生に対しての十分な履修指導、及び個別の学修状況を踏まえた適切な履修相談を行い得よう、各年次の演習担当教員による個別の履修指導のほか、各年次ごとに入学から卒業まで同一の教員が担当する「学年担任制」を導入し、組織的な履修指導や学生個別相談を行うこととした。</p> <p>なお、平成28年度入学生（開設時入学生）の学年担任は、以下に掲げる専任教員が担うこととした。</p> <p>【平成28年度入学生学年担任（3名）】 寺本祐治（教授） 笠野英弘（准教授） 三井 勇（准教授） (28)</p> <p>平成29年度入学生（開設2年目の入学生）の学年担任は、以下に掲げる専任教員が担うこととした。</p> <p>【平成29年度入学生学年担任（3名）】 神田忠彦（教授） 中垣浩平（准教授） 岸 邦彦（講師）</p> <p>なお、平成28年度に入学した学生については、入学時に学年担任となった3名の教員が引き続き指導・助言にあたっている。 (29)</p>

区 分	留 意 事 項 等		履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設置計画履行 状況調査時 (平成29年2月)	該当なし			

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 同一設置者が設置する既設学部等に付された意見は、当該大学から提出される全ての報告書に記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

7 その他全般的事項

<スポーツ科学部 スポーツ科学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<p>①授業科目の開講時期の見直し 『エ 教育課程の編成の考え方及び特色』 「実技実習 b 4 (ホッケー)」(1・2 後) 「実技実習 c 2 (レスリング)」(1・2 前)</p>	<p>①運営上の安全性に配慮し、以下のとおりとした。 「実技実習 b 4 (ホッケー)」(1・2 前) 「実技実習 c 2 (レスリング)」(1・2 後) (「2 授業科目の概要」「5 教員組織の状況」にも明記した。) (28)</p>
<p>②兼任教員の職位変更 『オ 教員組織の編成の考え方及び特色』 河野誠哉 (経営情報学部経営情報学科准教授) 清水 正 (法学部法学科准教授) 飯島理彰 (現代ビジネス学部現代ビジネス学科講師)</p>	<p>②平成28年4月1日付で昇格した。 河野誠哉 (経営情報学部経営情報学科教授) 清水 正 (法学部法学科教授) 飯島理彰 (現代ビジネス学部現代ビジネス学科准教授) (「2 授業科目の概要」「5 教員組織の状況」にも明記した。専任教員の変更はない。) (28)</p>
<p>③兼任・兼任教員の身分変更 『オ 教員組織の編成の考え方及び特色』 塩沢一平 (経営情報学部経営情報学科教授) 倉澤一孝 (現代ビジネス学部現代ビジネス学科兼任講師)</p>	<p>③平成28年4月1日付で発令した。なお、身分変更のみであり、担当科目の変更はない。 塩沢一平 (経営情報学部経営情報学科兼任講師) (他大学に移籍：設置計画に基づく教員ため、再三にわたり慰留を行ったが、本人の意思が固く認めざるを得なかった。) 倉澤一孝 (経営情報学部経営情報学科准教授) (本学既設学部の本務者として採用) (「2 授業科目の概要」「5 教員組織の状況」にも明記した。専任教員の変更はない。) (28)</p>
<p>④兼任講師の就任辞退 『オ 教員組織の編成の考え方及び特色』 一瀬拓樹「日本語Ⅰ」「日本語Ⅱ」「日本語Ⅲ」「日本語Ⅳ」 (授業科目は全て外国人留学生対象)</p>	<p>④日本語関係科目 (外国人留学生対象) の担当者として予定した一瀬拓樹氏が本学職員への採用を希望したため、担当者より除外した。なお、日本語関係科目に関しては他に担当者が4人おり、170人の入学定員に対して40人 (概ね入学定員の1/4) の外国人留学生が入学したと仮定しても1クラスの学生数が10人となることから、授業科目の運営上に支障はなく、後任は補充しないこととした。なお、平成28年度の入学生中、外国人留学生は0人である (日本語関係科目は履修者がいないため未開講)。 (「2 授業科目の概要」「5 教員組織の状況」にも明記した。) (28)</p>
<p>⑤兼任講師の就任辞退に伴う担当者の変更 『オ 教員組織の編成の考え方及び特色』 野田金男「富士山と観光」</p>	<p>⑤野田金男兼任講師より健康上の理由により就任を辞退したいとの申し出があり、設置計画に基づく教員ため、再三にわたり慰留を行ったが、本人の意思が固く認めざるを得なかった。 後任に関しては、「観光と自然保護」を担当する古屋亮兼任講師とし、支障はない。 (「2 授業科目の概要」「5 教員組織の状況」にも明記した。) (28)</p>
<p>⑥教職課程認定 (平成27年11月24日付) に伴う認可後の兼任・兼任教員の変更 『オ 教員組織の編成の考え方及び特色』 「子どもの発達と社会Ⅰ」(天沼英雄兼任教授：単独担当) 「教育課程論」(天沼英雄兼任教授：単独担当) 「特別活動論」(田沼朗兼任講師：単独担当) 「生徒指導・教育相談」(田沼朗兼任講師：単独担当)</p>	<p>⑥認可後の教職課程認定申請手続きに伴い、左に掲げる科目の兼任・兼任教員の担当等を、以下のとおりとした。なお、専任教員に係る変更はない。 「子どもの発達と社会Ⅰ」(天沼英雄兼任教授及び中野隆司兼任講師の2人によるオムニバス方式) 「教育課程論」(天沼英雄兼任教授の単独担当のほか、百瀬光一兼任教授の単独担当を加えたクラス分け) 「特別活動論」(百瀬光一兼任教授：単独担当) 「生徒指導・教育相談」(田沼朗兼任講師及び遠藤清香兼任講師の2人によるオムニバス方式) (「2 授業科目の概要」「5 教員組織の状況」にも明記した。専任教員の変更はない。) (28)</p>

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<p>⑦専任教授の就任辞退に伴う担当者の変更 『オ 教員組織の編成の考え方及び特色』 入江省熙（専任教授） 「スポーツ経営学」 「スポーツ専門演習1」 「スポーツ専門演習2」 「スポーツビジネス論」 「スポーツマーケティング論」 「生涯スポーツ演習3（スポーツビジネス）」 「生涯スポーツサポート演習2（スポーツマーケティング）」</p>	<p>⑦入江省熙教授に関しては、辞職理由が一身上の都合（本人のプライバシーに関する事項）であり、本学としては再三にわたり慰留したが本人の辞職の意思は固く、平成29年3月31日を以っての退職を認めざるを得なかった。 後任に関しては、入江省熙教授の辞職の意思を確認の後、速やかに、平成30年4月就任予定として入江教授担当科目の全てを担当する専任教員を公募し候補者を絞り込むとともに、係る者（小山さなえ教授）については平成29年6月に予定のAC教員資格審査を受審する予定としている。また、この手続の間の学生の学修権を保障するため、第2年次配当までの科目として開講する必要のある「スポーツ経営学」「スポーツビジネス論」「スポーツマーケティング論」「生涯スポーツ演習3（スポーツビジネス）」に関しては、専任教員確定までの移行措置として、平成29年度においては霜島広樹兼任講師を追加し、対応することとしており、支障はない。 （「2 授業科目の概要」「5 教員組織の状況」にも明記した。） (29)</p>
<p>⑧授業科目の開講時期の見直し 『エ 教育課程の編成の考え方及び特色』 「実技実習b3（ラグビー）」（1・2 後） 「実技実習c3（空手道）」（1・2 後）</p>	<p>⑧学生の履修の便に資するため、以下のとおり授業科目の開講時期を追加した。 「実技実習b3（ラグビー）」（1・2 前・後） 「実技実習c2（レスリング）」（1・2 前・後） （「2 授業科目の概要」「5 教員組織の状況」にも明記した。） (29)</p>
<p>⑨入試区分の見直し 『ク 入学者選抜の概要』 AO入試Ⅰ期・Ⅱ期 推薦入試Ⅰ期・Ⅱ期 一般入試A方式・B方式 センター方式入試Ⅰ期・Ⅱ期</p>	<p>⑨多様な社会的背景を持つ受験者を受け入れることが可能となるように、認可時の計画に示していた入試区分に加え、「社会人入試」を新設する。このような新たな入試区分を設けることにより、学び直しや新たにスポーツ科学の学修を行いたいと考える社会人経験者にも本学部への入学の可能性が開かれることになる。募集人員については、2人以下とする予定で、この人数が他の入試区分から減じられたとしても、他の入試区分で募集を予定している人数には大きな影響は及ばないことから、受験生に対する不利益は生じないと考えている。(29)</p>

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
・ 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

スポーツ科学部では、全学的に行う教員の資質の維持向上の方策に則り、(1) 学生による授業アンケート（前期・後期の年2回とし、全科目を対象とする）の実施、(2) 授業開放による教員相互の教育方法・内容・技術に関する情報交換の推進、(3) 教員研修会の開催、(4) 教員個別の外部研修への参加を実施している。このため、スポーツ科学部内にもファカルティ・ディベロップメント（FD）委員会を配置し、全学的な活動と歩調を合わせながら実施している。なお、本学全体としては、平成27年度まではファカルティ・ディベロップメント（FD）に特化した委員会である「ファカルティ・ディベロップメント委員会」を設けていたが、平成28年度より当該委員会、及び学生の初年次教育に関する事項を取扱う「基礎演習企画運営委員会」を統合し、新たに学生に向けたピア・サポートや補習教育を含む包括的な支援のあり方や、インスティテューショナル・リサーチ（institutional research ;IR）などを包括的に研究・運営するための研究機関として、学習・教育開発（Learning and Education Development ;LED）センターを配置のうえ、ファカルティ・ディベロップメント（FD）に係る事項に関しては学習・教育開発センター運営委員会において審議事項として取扱うこととした。学習・教育開発センターには、学習・教育開発センター運営委員会を配置し（委員は、本学が開設する全ての学部からの代表者で構成）、科学的分析に基づく教員の資質の維持向上の方策を企画させ、全学的に共有することによる学生教育の充実を予定している。なお、資料として、「学習・教育開発センター規程」及び「学習・教育開発センター運営委員会規程」を、別途添付する。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

全学に亘るFDについては、「学習・教育開発センター運営委員会」において企画し、運営している。スポーツ科学部においても、この委員会の審議結果に基づきながら、学部内のファカルティ・ディベロップメント（FD）委員会において分析を行い、直近の学部教授会において議題として提示し、検討を行うこととしている。平成28年度のFD活動の実績に関しては、学生による授業アンケートの実施とその結果の分析に基づく改善計画の翌年度シラバスへのフィードバック、全学参加のFD研修会の開催などがある。

c 委員会の審議事項等

学習・教育開発センター規程第3条及び第9条において、以下のとおり定めている。

（事業）

第3条 LEDセンターは、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) 初年次教育及びコンピテンシー教育に係る授業の計画と運営
- (2) ファカルティ・ディベロップメント（FD）及びスタッフ・ディベロップメント（SD）の計画と実施
- (3) ピア・サポート体制の確立
- (4) 補習教育を含む学習支援
- (5) インスティテューショナル・リサーチ（IR）
- (6) その他LEDセンターの目的達成にとって適当と認められる事業

（運営）

第9条 LEDセンターに、事業の計画、運営等に関する事項を審議するため運営委員会を置く。運営委員会に関する規程は別に定める。

② 実施状況

a 実施内容

- (1) 授業方法についての研究会
- (2) 教員相互の授業参観
- (3) 新任教員のための研修会
- (4) 専任教員ための学外研修会出張への補助

b 実施方法

- (1) 授業方法についての研究会：スポーツ科学部内のファカルティ・ディベロップメント委員会において企画し随時実施
- (2) 教員相互の授業参観：授業運営に支障を来さない範囲で参観は随時（本学全体の申し合わせ事項）
- (3) 新任教員のための研修会：平成28年度（開設初年度）は、平成29年3月1日（水）に実施
- (4) 専任教員ための学外研修会出張への補助：学習・教育開発（LED）センターにおいて随時受付

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- (1) 授業方法についての研究会
4月1日（金）の学部教授会の折に開催し、就任済の全専任教員が出席した。
- (2) 教員相互の授業参観
授業運営に支障を来さない範囲で参観は随時としているが、開設後間もないため、集計には至っていない。
- (3) 新任教員のための研修会
全専任教員が出席した。兼任・兼任教員に関しては最初の授業の前に個別に説明を行った。
- (4) 専任教員ための学外研修会出張への補助
学習・教育開発（LED）センターにおいて随時受付。
研修結果は書面による報告を義務付けている。また、報告書に関しては、全学に公表することとしている。
開設後間もないため、研修結果の集計には至っていない。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

学部開設後1年を経過し、実施結果に関する取りまとめや、係る結果を活用した授業改善等への取組みに移行している。とくに前年度（開設年度）においては学生による授業アンケートの結果を詳細に分析し、それぞれの授業に対する学生の個別意見を分析したうえ、当該科目の授業改善計画に関しては学生の科目選択にも資するよう、シラバスに明示した。また、これらの諸課題に関しては、「学部FD会議」において段階的に実施結果を共有のうえ議論し、速やかに改善に向けた取組みに活用しうるよう取組を進めている。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

前期、後期ともに、第8週目に実施。

b 教員や学生への公開状況、方法等

結果の公表に関しては、学生の独善的な解釈を避けるために公表範囲を教員組織のみとし、学部全体として数値化した結果の共有と、教員個別結果の個別通知に基づく議論を行っている。この議論に基づき、前述のとおり、それぞれの授業に対する学生の個別意見を分析したうえで、当該科目の授業改善計画に関しては学生の科目選択にも資するよう、次年度のシラバスに明示している。

(注) ・ 「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

本学部は、教育目標として「スポーツ基本法」「スポーツ基本計画」に示された「スポーツ界の好循環システム」に貢献する人材の育成を掲げ、地域における競技スポーツと生涯スポーツの推進者の育成に焦点をあて、競技スポーツコースと生涯スポーツコースの2つのコースを設け、両コースともに「スポーツ界の好循環システム」に貢献する人材の育成を目指す学生の自立を育む教育課程と、各種のスポーツ種目や競技スポーツ・生涯スポーツ(障がい者スポーツを含む)に対応しうる学修環境を提供することで、教育目標として掲げた能力を学生たちに修得させることを使命としている。

学部開設2年目を迎えたばかりの現段階(平成29年5月現在)で上記のような設置の趣旨・目的が達成されているかを評価することは非常に困難である。しかし、入学定員170人に対して各年度300人以上の志願者が得られたという実情に鑑み、本学部の社会的責任を改めて確認のうえ、計画した内容を着実に履行していく。加えて、学部開設からこれまでの経験を踏まえて、学生たちが知識修得に偏ることなく授業で得た知識や技術を日常生活の中で確認できるように促し、生きる力を身につけられるようフォローアップするための体制を整備するなど、さらに万全の体制を整えるべく、検討を続けることにしたい。

今後は、本学部の意欲的な教育プログラムが広く認知されるように、入試広報活動を一層、強化して、入学者の確保に努める計画である。

② 自己点検・評価報告書

a 公表(予定)時期

- ・平成28年6月30日 公表(平成27年度自己点検評価書:認証評価対象報告書)
- ・平成29年6月30日 公表予定(平成28年度自己点検評価書)

b 公表方法

- ・自己点検・評価報告書を刊行し、地域自治体及び地域企業に配布を予定(平成29年7月を予定)
- ・本学ホームページ上に公開予定(平成29年6月末を予定)

③ 認証評価を受ける計画

- ・平成35年度に日本高等教育評価機構の認証評価を受審する予定である。

(平成28年度に日本高等教育評価機構の認証評価を受審し、同機構の定める大学評価基準に適合しているとして判定されたため、次回受審は7年後として予定している。)

(注) ・ 設置時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無

(有) ・ (無)

b 公表時期(未公表の場合は予定時期)

(平成29年6月末)